

地域計画

策定年月日	令和6年7月1日
更新年月日	令和7年8月1日 (第1回)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	江津市 322075
地域名 (地域内農業集落名)	小田・今田 (小田下、小田中、小田上、長尾、今田)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域及び農林業センサスの農業集落名を記載しています。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	59.4 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	53.5 ha
② 田の面積	56.5 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	2.8 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	4 ha
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載しています。

2:④については、地域の農業を担う者が今後、規模縮小の意向を持つ、あるいは拡大・参入が困難な区域(レッドゾーン)の農地面積を記載しています。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・認定農業者3者(2法人1個人)と認定新規就農者1者(個人)を含む2法人3個人が地域の農業を担う者として在する。
 - ・平坦な地域に大区画圃場がまとまっており、最も担い手への農地集積が進む本市最大の農業エリア。
 - ・水稻栽培がメインであるが、大豆、WCS、白ネギ、タマネギなどとの組み合わせや水稻や大豆の有機栽培などで高収益化を図っている。
 - ・エリア内最大の担い手である集落営農法人において、若手人材が不足している。
 - ・過去5年間で3回の浸水被害を受けるエリアだったが、堤防工事等が進み、リスクが減少している。
 - ・圃場整備率は100%。実施状況は以下のとおり。
- 【S59～60(金尻)、H11～16(小田)、H20～25(今田)】

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・小田地区は、最先端の農業技術を積極的に取り入れながら効率化、高収益化を目指す農業振興拠点。
- ・今田地区は、有機JAS圃場を拡大し、特色ある農業を推進する有機農業拡大拠点。
- ・高齢化が懸念される集落営農組織の後継者となる担い手を確保、育成。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
既存の認定農業者(集落営農組織含む)、認定新規就農者への集積を進めつつ、高齢化が懸念される担い手については、継承方法や継承先、時期などを段階的に検討していく。			
(2)-1 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	92 %	将来の目標とする集積率	92 %
(2)-2 地域内の農業を担う者に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	96 %	将来の目標とする集積率	96 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
地域内の農業を担う者別に集計した合計団地数は13。 担い手ごとの団地形成を促進し、団地数の減少を図る。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組	
・小田上、小田中、小田下集落	小田中集落・小田上集落：区域内農地の9割以上を集落営農組織が耕作しており、ブルーゾーンとする。
・長尾集落	認定農業者が耕作しており、今後も利用予定であることからブルーゾーンとする。
・今田集落	複数の担い手が耕作しており、新規就農者が新たに参入したことから、ブルーゾーンとする。
(2)農地中間管理機構の活用方法	
担い手の経営意向を斟酌しながら、順次中間管理機構による集積を進めていく。	
(3)基盤整備事業への取組	
今田集落において排水が悪い箇所が存在しており、個別に改善(弾丸暗渠の施工等)を検討する。	
(4)多様な経営体の確保・育成の取組	
集落営農組織における担い手不足を解消するため、半農半集落などの多様な担い手の確保・育成に積極的に取り組む。	
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
当エリアには農業支援サービス事業者が不在。	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)					
☐ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等	
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携	☒ ⑩その他	
【選択した上記の取組内容】					
② 今田集落において、有機JAS認証圃場が拡大する可能性があり、定着に向けた支援を行う。					
③ 小田地区においては、局所施肥が可能なドローンの導入等スマート農業を用いた効率的な営農体系の構築を目指す。					
⑨ 飼料や牧草栽培と畜産、堆肥活用を連携させた耕畜連携の取り組みを推進する。					

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 15 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		水稻	33.08 ha	0 ha	水稻	33.08 ha	0 ha	1	
認農		大豆、ごぼう等	12.43 ha	0 ha	大豆、ごぼう等	12.43 ha	0 ha	2	
認農		水稻、繁殖牛	7.50 ha	0 ha	水稻、繁殖牛	7.50 ha	0 ha	3	
認就		水稻、露地野菜	1.75 ha	0 ha	水稻、露地野菜	1.75 ha	0 ha	4	
利用者		水稻	2.21 ha	0 ha	水稻	2.21 ha	0 ha	5	
計	5経営体		56.97 ha	0 ha		56.97 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載しています。

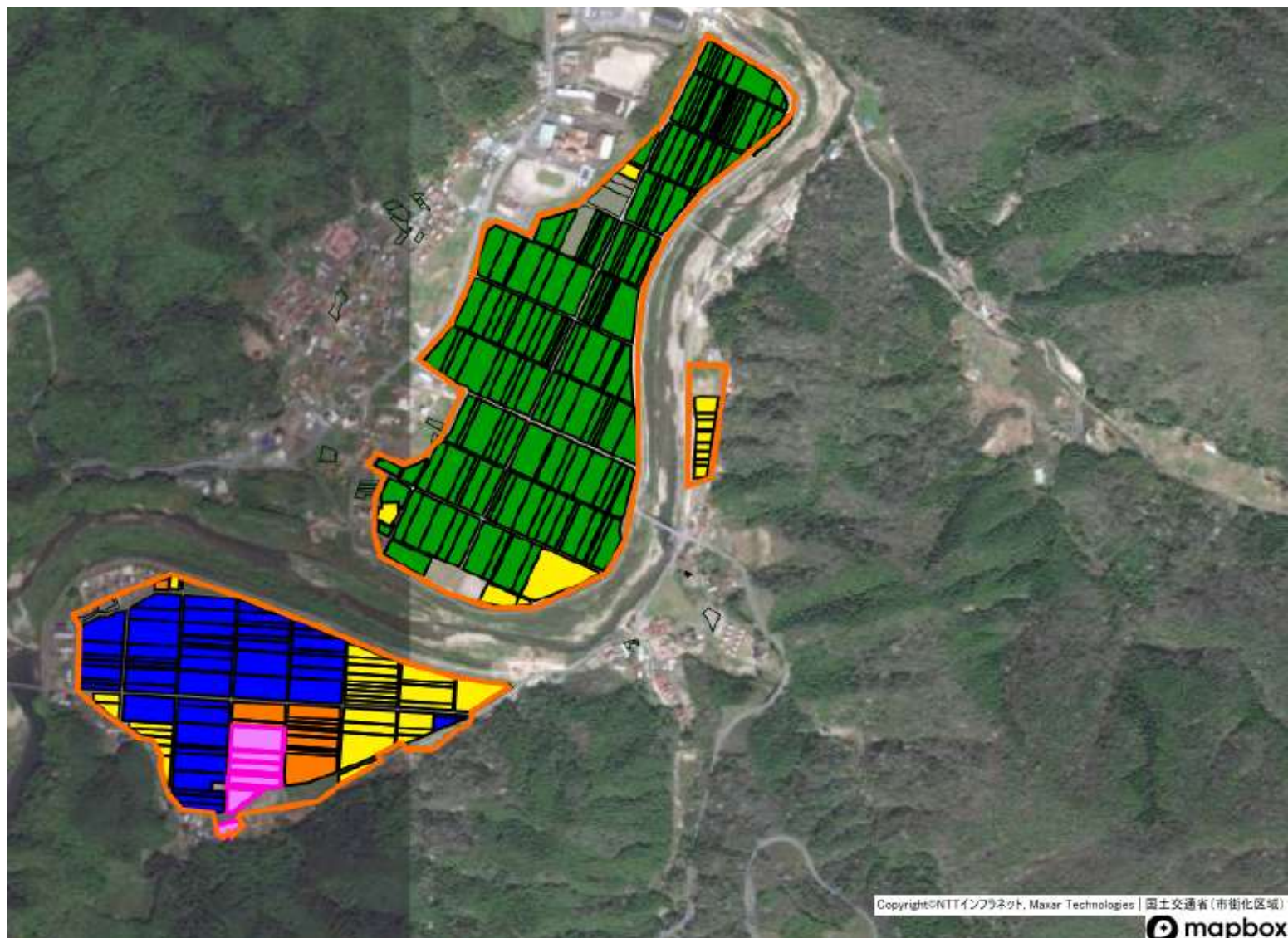
2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載しています。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
		該当なし	

6 目標地図(別添のとおり)

目標地図(小田上・小田中・小田下・長尾・今田集落) ※現状地図から変更なし



凡例

1

2

3

4

5

地域計画エリア